

第62回全学実行委員会議事録（令和2年7月24日）

注意事項

- ・ 表示名は『団体名_氏名』にしてください。(個人の場合は氏名のみで構いません。)
- ・ レジユメは公式webサイト(<https://nf.la>)にて掲載しております。ユーザー名及びパスワードはDMもしくはメールでお伝えした通りです。
- ・ ミーティング/議事録のURL及びパスワード、レジユメ掲載ページのユーザー名及びパスワードを拡散したり、他者に教えたりしないでください。
- ・ 発言時以外はミュートにしてください。
- ・ 発言する際には「手を挙げる」機能を使用してください。ホストがミュートを解除することで指名します。
- ・ 議事録の都合上、発言時にはまず氏名を述べるようお願いします。匿名性を保つために保存時にはアルファベットに書き換えます。
- ・ 荒らし行為や妨害行為が確認された場合、強制退場等の措置をとることがあります。
- ・ 会議の録画、録音は禁止です。
- ・ 会議の最長終了時刻は22:00です。
- ・ 採決には「手を挙げる」機能を使用します。
- ・ 離席者のために全会一致が得られない場合、反応が確認できなければ全会一致とみなします。但し、その後離席者からの異論があれば受け付けるものとします。

長：全学実行委員長

事：11月祭事務局

長：始めます。(諸注意読み上げ)議事案について話し合います。

事：第62回11月祭全学実行委員会への提案について異議がある人はお願いします。

長：異議がなければ挙手を持って承認とします。(承認)開催可否の提案に移ります。

事：レジユメ二番をご覧ください。(資料読み上げ)

長：異議質問はあるか。

K：延期に反対はしない。2点質問がある。①延期した場合のNFの形態は後日提案とのことだがどういう見通しか。時期など。オンライン開催というのはどういう構想か。②延期するとなると休講措置や場所など当局との交渉が出来ているのか。

P：開催可否について、8月上旬に決める予定だった。8月なのは京都府のガイドライン見直しの後だからということだった。京都府のガイドラインの変更がないとの情報があるのか。当局との話し合いなどあったのか。

事：延期の見通しについて。3月に延期を検討している。3月は休講措置を取らなくていいのでやりやすい。当局との交渉に関して、3月に検討していることは伝えている。場所の確保のお願いもしている。当局はそれに対し否定的な態度は示していなかった。京都府のガイドラインについて。先日政府が大規模イベントの制限緩和を延期したので、京都府のガイドラインが緩和する可能性は低いと思い今提起した。

U：もともとは屋内企画に関するコロナ関連の対策の発表で8月以降の規制緩和を発表するということだが、11月以前に今の情勢が落ち着き制限緩和がされた場合に備えて水面下で準備を進めることはないということか。

事：延期に備えての準備と11月にできそうな場合の準備を同時並行で行うのは人員不足や資金の問題などもあるので、延期が決定された場合はコロナの状況が改善しようと11月には開催しない。

W：その判断をする段階は、今より後にしてしまえば改善してやっぱりやりますと言えないギリギリのタイミングが今ということか。

事：そのような認識で大丈夫。

W：ありがとうございます。

P：今年NFができない、延期してもできない、来年もできない・・・となりうる。どのレベルなら開催可能かを学生側が定める必要がある。感染も拡大してるっぽいし、となんとなく決まっている。感染がどう広がり政府が出す資料だったり再現性のあるデータをもとに「こういう規制をする」などのランクを定めておく。規模は小さくなるにしろ開催できるライン

を探してく。これが3月になりやっぱり出来ませんとなってしまう。できる限り学生主体で客観的な基準を作る必要がある。

長：その他異議質問等あるか。

U：参照テキストを紹介する。これをもとに議論を締めたい。(チャット：<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/corona1.pdf>)参考資料2を見てほしい。検討会の議事の結果がある。6/30段階でのガイドラインを載せたもの。段階に応じての対策やどういう前提に基づいているかが書いてある。8/1で緩和するという動きを緩和することにかかわらず落ち着いた後の非常に重要な参考資料となる。それぞれの基準に基づいた物を作る必要がある。どの制限をかけるかを具体的に設定できる。全学実に一旦目を通して、考える材料にして欲しい。

W：2点ある。①先ほどのpdf116p,117pあたりにあるということです。②延期した場合の開催形態については後日改めて提案すると書いてあるが、具体的な時期が必要だと感じる。3月の開催に関しては事務局内だけではなく議論で慎重に話し合いをすることが必要。であれば早めから議論をしたい。次の3月感染が拡大したのでとりあえず中止で、とはしたくない。ので、事務局に対して時期を決めることはできるかとの質問。

U：基準をまとめたものではない。模擬店などに加えて講演会などサークルとしての展示的な企画もある。もう一つ、ステージ企画もある。事実的にこの3つのジャンルがある。ジャンルによって感染リスクを別に考えることができる。それに対応した基準を作る必要があるということ。こういったものが想像できるか考えてほしい。

D：ニュースで、京大のクラスターが話題になった。これに関してNFを中止しろと当局から言われても、延期を中心に考える方針は変えないつもりか。

P：それは飲酒規制と同じ。また全学実で改めて議論すればいい。

事：Wさんの質問に関して、11月の開催を断念することが決まったら3月の延期と、それができなかった場合に備えてオンライン開催についてを検討していこうと考えている。具体的な時期は、実務的に逆算すると遅くとも11月までには提起する必要がある。まず事務局内でどれくらい時間がかかるか見当がつかない。遅くとも11月。

K：交渉について。いまNF延期を決定せずに11月祭を強行する可能性も忘れずに当局と交渉した方が当局に足元を見られずにすむ。それをするには時間が足りないということか。

W：事務局さんの返事に関して、ありがとうございます。この件に関しては初めてのことでどこに重大な判断があるかわからないので不完全でもいいので早めに全学実にも共有してほしい。Kさんの発言に関して、当局的にはこの情勢でNFを強行するくらいコロナの情勢を甘く見ているならもっとNFを締め付けようともなりうるので単純に有利になるとは考えづらい。

K：Wさんに関して、意図としては「3月に延期したいがちゃんと日程開けてくれないと1月に強行するしかないなあ、3月にやりたいな」と交渉するという意図。

事：Wさんに関して、参考にさせていただきます。Kさんに関して、現在明言はしていないが3月延期を検討していると大学と軽く交渉を持ちかけていて、当局は否定的な態度を見せてきてないので3月に日程及び施設を貸してくれるはず。交渉のために強行というカードを使うことは考えていない。

P：感染状況に応じたジャンル別の開催基準ないし開催内容をNF事務局内でどの程度検討しているのか。教えてほしい。もしくはこれから改めて提起してほしい。できるか。

U：（チャット：https://corona.go.jp/expert-meeting/pdf/sidai_r020722.pdf

）内閣官房の対策本部の第41回のもの。17p以降の数ページくらい。資料2.1。屋内の5000人、50%に関して、NFで問題なのは開催規模の規定。来場者数はわからないが、聞きたい。それはそれとして、おまつり広場内の人数か、ステージ企画中の人数か、イベントごとにわけて規模を規定することはできるのか。法的にどう規定できるかはわからない。オフで開催するとなったらそれくらいのこと(セクターごとに規模を規定すること)をできるので。事務局はこう言ったことを考えているのか。NFの10万人という規模を数百人ずつのイベントとして分けるということ。

事：Pさんに関して、できる限りガイドラインに反映させていく。Uに関して、四日間で10万人。事務局としては運営主体として感染をできる限り防ぐ責任がある。論理上の問題で片づけたくない。

Q：ガイドラインに反映させていくと書かれているが今後の延期での基準を定めていくということか。

事：その認識でいい。

Q：ありがとうございます。もう一つ。Wさんの意見に関して、参考にするという返事だがもう少し議論を踏まえるプロセスを重視してほしい。全学実が決まったことを議決するだけの場所ではない。

P：先に延期を決めてあとから状況にあった延期形態を決めるのは順番がおかしい。部分開催はそれ自体がNFの携帯を決めるものなので、全学実で決めるべき事柄。各場所でもう実施するかは実務だが何人を入れる、各部分でできる出来ないなどは全学実で決めるべき。ガイドラインを持ってこないと話ができない。全部延期を決めるのは議論として大雑把すぎる。全企画に関して全部開催できないので11月に開催しないというものを示してほしい。

U：責任問題に関して。政治の言葉において事務局の責任があつて事務局はそう思っている。事務局が運営主体だという確信があるから。これは次の点で擁護できる。今現在第一回全学実で決算の収入合計が1400万円でそのうち三割が広告収入。420万。前年度の繰り越しが300万、パンフが200万。補助が130万。広告収入やパンフや援助が事務局という「運営主体が」信用されておりそれに基づいて事務局の責任は経済的な観点ではまったくもって正しい。政治と経済の二項対立がどう通用するかわからないが責任の領域は分割できる。法的には運営主体は全学実である。責任の領域に関して、分散可能だと思う。難しい問題なので中間実のセクターに責任を分割したり、別の組織を作つて責任を持たせることもできる。責任の分散を各セクターに分散できる。事務局で持つとか。ちょっとわからない。理論上の問題でしかない。どう実施するかはわからない。どう社会的に承認されるかもわからない。

事：勘違いがあるかもしれない。今回の提案では延期を決定するものではなくNFの従来の日程での開催を断念するという提案。具体的な延期プランは次回提案するというもの。

K：意図としては従来の通常通りのNFを開催するための諸作業を止めてもよいということか。

事：そういう意図もあり、加えて延期なり今後のプランについて慎重に検討できるという狙いもある。

U：我々の議論が分からなかったかもしれない。国際高等教育院での承認をおじゃんにして延期をどうするかはこれからにしようというのが事務局の議論。是か非かはトピックとして考えるべき。延期を中心に据えようというのは抽象的。僕の意見はどうでもいいが、これは最初に決定すべきことなはず。今後の全学実でいつでも意見を参照できるようにして欲しい。事務局の意見を聞きたい。全学実で考えましようとかは言ってもいいと思う。

事：今日の議論の内容だったりの意見を参照できるようにするというのは、議事録を全学実の参考資料として公開するとかそういうことか。

U：早とちりしました。どう議事録を次回以降利用するかは事務局の采配によるが、全学実の方で絶対に出すよと言っちゃ手もいいんじゃないかと。でも事務局の提案がない限りは何とも言えないが……。全学実さんが「前回の資料ですよ」と言ってほしい。事務局は全学実以外の他の機関の支配を受けてはならない。こう書かれているので、全学実にのみ責任を持つ。事務局は法的には…。経済的には責任を持つが政治的というか法的な責任は全学実にのみ責任を持つという認識を持っていて欲しい。それから事務局責任問題を規定できるのかなという風には思う。これ以上言うと前回同様混乱を生むのでやめておく。

W：事務局に質問で、この議案が通ったとしてNF延期を中心に検討するということは広報するのか。その広報が遅くすると人が来なくなる。迷惑も掛かる。

事：意見の通り企画さんや来場者に影響が出るので準備ができ次第広報するつもり。

P：私の意見に答えてもらってない。模擬店が難しいのはわかる。ステージや演劇が難しいのも一定理解はする。しかし入場制限を行ったうえでの本部講演や研究室企画、屋内企画の部分開催を検討しない理由としては、人数が足りないからか、時間がないからか、資金に見合わないのか、京大生のみにしなないといけないがそうすると意味がないからか。

事：それを検討して縮小開催を考えない理由として、8月上旬までという話があり縮小を考えるにあたって特定の企画種別だけを削るというのは企画を出す方的にどうなのか、稼いだお金がサークルの資金源になるサークルもあるので慎重な議論が必要。今週あたりから試験

習週間だし、8月までには慎重な検討ができない、ここで断念を決定して3月なりに向けて検討に向けた時間があるのでそうした。今まで縮小開催に関して検討していない理由として、なるべく従来の規模で開催することを検討してきた。いろんなパターンでの開催が考えられると思うがすべて検討するとどれも中途半端になるんで、最初は従来通りの開催を検討してきたので縮小開催に関してはあまり検討してこなかった。

P：そうですね。3月に開催できるかわからないのにかけるのではなく11月に部分的に開催するのが確実。部分開催をできるかどうか自体は全学実で話すべき話題。8月までに検討ができないなら8月上旬に決めればいい。試験期間が終わって8月上旬という話だったのでそれでいいのでは。部分開催か延期か。11月に二日間は屋内、3月に二日間模擬などをするとか。確実に残せるものをしたい。

事：11月に部分的に開催するのは当初の見込み通りこの時期に感染状況が改善していたら11月に開催できるように取り計らうつもりであったが現状を見ても京大生からコロナ感染者が出たという話もあり、この状況に鑑みても11月に開催できる可能性は低い。また、あと1、2週間で決めなければならないという実務の都合上難しい。オンライン開催としてもいまから構想を練って準備するのは技術的にも難しい。ここで断念して3月に開催できるように当局なりと交渉を早めに進めていくのが確実だと思っている。また、これまでもこういうことは全学実で話し合うべきという話があったが、検討や議論は事務局内部でという意味ではなく全学実でという意味。事務局内部だけで話し合いたいというわけではない。

W：本来あるべき姿としてこういった状況を見越してもっと前の時期から全学実含めた各サークルで話し合っておいて今対応ができるというのが理想。これは理想論。現実はどうでもなかったし、それを責めるのも違う。今からできることとしては11月での開催を中止するしかないと思う。これを活かして3月に向けて検討を早め早めに細かく徹底できるのであれば賛成。遅くとも11月からというのは多少遅すぎると思うが、それだけ。

事：訂正だけすると、遅くとも11月というのはあくまで実務から逆算した締め切り。もちろん出来る限り早く全学実の場で提起する。

P：この情勢で延期することには反対でない。何が問題かというところな曖昧な場の空気です決めるのに反対。今回は仕方ないが次回以降も曖昧な空気です全部延期とするとよくないよ

と。それで今回ガイドラインを盛り込むって言ってましたがガイドラインはいつ全学実で決めるのかという話もある。

U：Pさんの意見に同意する。根本的な問題を見逃して日和見主義に決定を行うのは政治的には必然的でない。全学実の理論に基づいて事務局含め我々がそうなるように決定に従って行動するのが基本。状況に関わらず決定が行動を規定する原理原則に従うような決定を行うべき。

P：僕の言葉に焼き直すと、この状況ならこう開催すると決めていきたい。それに従い粛々と開催する。規定を作りましょうねという話。

W：結構時間も長くなってきたのでまとめに入りたい。一点。後日は遅くとも11月かつできる限り早い段階と変えて、先ほど行われた議論、本来なら客観的科学的な判断に基づいて判断すべきだが今回はできなかったのも3月は同じ轍は踏まずに事前に準備しておくという文言を加えるというのではどうか。

P：大筋は賛成。各企画ごとの感染状況に対応した実施方法を大学のマニュアルみたいな感じで作っておくということと、部分開催も検討しておくという文言を入れたい。

J：議案に関しては賛成。そのうえで先ほどの今後の形態に関しては3月を基本に考えているとのことだが、次回以降も他の選択肢も検討した結果を全学実で示してほしい。もう一点質問で、(3)統一テーマに関して、62回11月祭ならあえて選び直さなくてもいいのではないか。

P：ガイドラインの話で、9月にガイドラインを決議し後は事務局の裁量で変えるという話だがそれが後に4ヵ月ずれるということか。ならばそういう文言を盛り込んでほしい。

U：Jさんの意見に関して、統一テーマの性質を考える必要がある。統一テーマは全学実で公式に決まっているわけではないが歴史的にどういうテーマが決まっているかというと時事の側面が強い。「撤去されました」など。改めて再選をするのは極めてエンタメ的な要素でも批評性などの観点でも選び直すことに擁護できる。

事：決議に関して、こちらが想定していたものと相違していないのでよい。9月のガイドラインが4カ月ずれる話に関しては、ガイドラインは11月開催想定のものであったので単純に4カ月ずれるという話ではない。統一テーマに関して、通常と延期、時期の違いなどにより思いも違うので再度募集したいと考えている。

J：ありがとうございます。満足です。

P：それは9月に決めるという話も荒れましたし結局ガイドラインは何回でも全学実で決議すればいい。現行のガイドラインで、よりよいガイドラインを全学実を持ち込んで...という感じ。締め切りを決めてそれまでに一回は決議しようねということ。締め切りの1月までに一回は決議し、締め切り前は全学実で決議して、締め切りを過ぎた後は事務局で帰るという意図ですね？理解していただければと思います。

事：Pさんの発言とこちらの意図に相違はない。その認識でいい。

W：チャットに内容の追加の分を送りました。これではどうか。

(以下チャット)

- ・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

- ・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的・科学的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。この基準は各企画の内容形式を反映した部分開催も視野に入れたものとする。

長：この内容も含め事務局の提案の決議に入りたいと思う。これについて意見質問等あるか。

I：議題が終わってしまう前に質問で、オンライン開催に関して形態を聞きたい。また、オンライン開催を決定する場合何月までに決定しなければならないか。3月のオフラインならば11月という話だったが。

事：オンラインの形態に関して、具体的な構想は練っていないが基本的には他大学のオンラインで開催したものを参考に考えていきたい。オンライン開催の場合、基本的に延期した先で第n派が来ることも想定できるので同時並行で考えていく。実務的な期限があるわけではない。

P：さっき言った各企画ごとの感染に関してと部分開催に関する文言「各企画ごとの感染状況に対応した実施方法を大学のマニュアルみたいな感じで作っておくということと、部分開催も検討しておくという文言」を上手く整理して加えて欲しい。また、先ほど話していた、ガイドラインを1月までに決議して行うと言う風にガイドラインの取り扱いについてを加えていただきたい。

I：回答ありがとうございます。もう一つ質問で、中止という選択肢に関して、皆がNFの開催を望んでいると思うがオンラインではなく中止と選択する場合どういう理由が想定されるか。

事：中止になるとしたら、技術的な面は善処するが、NFの意義がオンラインにそぐわないとなれば中止になりうるが基本的には事務局内では中止は考えていない。

I：回答ありがとうございます。開催を基本的に目指す旨承知しました。オンラインのことも承認に盛り込んでほしい。

W：Pの修正を反映して作成したものを送ります。オンライン開催に関しては反映できていません。書き始めます。

(以下チャット)

- ・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

- ・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的・科学的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。基準は各企画ごとの実施方法を含み、11月祭の部分開催も視野に入れたものとする。

・ 9月に決議予定であったガイドラインは1月までに決議することとする。

長：これについて他にあるか。

W：追加の決議内容は事務局としては実行可能か。

事：ご意見ありがとうございます。できるようできる限り善処していく予定です。

長：そのほかに何かないか。決議に移る。賛成の方は挙手を。()

P：議論に参加していない人がだいぶ手を挙げていないが。

長：今手を挙げていない方は反対理由を述べてください。

W：オンラインに関することが含まれていなかったため。今作成中です。

長：そのほかの方はなにかあるか。無ければ離席中とみなす。一旦Wさんの文章作成を待ちます。

W：(以下チャット)

・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的・科学的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。基準は各企画ごとの実施方法を含み、11月祭の部分開催も視野に入れたものとする。

・ 9月に決議予定であったガイドラインは1月までに決議することとする。

オンライン開催の文面がまだないため私は現段階で賛成しません。

・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的・科学的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。基準は各企画ごとの実施方法を含み、11月祭の部分開催・オンライン開催も視野に入れたものとする。

・ 9月に決議予定であったガイドラインは1月までに決議することとする。

J：いつするか、どういう判断基準かということも今後事務局で考えたうえで最終的な結論が全学実で示されるという認識で挙手したが合っているか。

事：その認識で間違いない。

W：さきほどチャットに追加文を送った。Iさんの意見を反映できているかは不安だが、どう思うか。

I：(以下チャット)ちょっと時間かかるので、ほかの方から先にお願いします。

W：事務局に対し、これに関して新しいほうの提案でも現段階で不可能に近いことはあるか。あるなら文書の変更が望ましいが。

事：見た限り現時点で明らかに現実的でない内容はない。実際に事務局内で検討をしていくのはこれからなので、その際に現実的でないことが判明したら全学実で発言する。

W：ありがとうございます。

I：チャットの文章に関して、最後の文「基準は各企画ごとの実施方法を含み、11月祭の部分開催・オンライン開催も視野に入れたものとする。」は日本語としておかしい。どちらかというと開催形態に関してなので。適当にお願いします。

W：ご指摘ありがとうございます。修正したものを送りました。日本語としておかしくなくなったと思います。確認をお願いします。

(以下チャット)

- ・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

- ・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的・科学的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。基準は各企画ごとの実施方法を含み、開催形態として11月祭の部分開催・オンライン開催も視野に入れたものとする。

- ・ 9月に決議予定であったガイドラインは1月までに決議することとする。

I：いいと思います。

W：ありがとうございます。

長：ありがとうございます。これを踏まえて提案内容の決議に移ります。これについて意見質問等なければ挙手をお願いします。

I：これ、今気づいたんですが、科学的客観的とあるが前回の全学実で「科学的」に関して意見があった。

W：たびたび不備があって申し訳ない。前回の場にいなかったもので、一旦修正を行うがそれでもだめだったら理由を教えてほしい。

(以下チャット)

- ・ 提案における「後日」とは遅くとも11月のことである。11月とは最低限の実務的な締め切りであり、11月祭事務局はこれよりも早く検討の場を用意できるよう努力する。

- ・ 11月開催の断念は、本来ならば全学実の場で事前に承認した客観的基準に則って判断すべきものであったが、時間的に困難であった。今後延期開催を決定することがあれば、感染症拡大状況に対応した11月祭開催形態の判断基準を作成し、この基準に従って判断を行う。基準は各企画ごとの実施方法を含み、開催形態として11月祭の部分開催・オンライン開催も視野に入れたものとする。

- ・ 9月に決議予定であったガイドラインは1月までに決議することとする。

長：よろしいか。決議に移る。以上3点ともともとの提案に関して賛成の人は挙手を。(承認)以上以外になにか質問提案あるか。

K：公開されると思うが、事務局に質問で、現状企画登録会の日程が8/24～9/4だがそれもずれるということか。

事：延期先の日程はまだ決まっていないが、もともとの日程では実施しないつもり。

K：ありがとうございます。

長：全体を通して何かあるか。

U：最後に一点だけ。議事録3/4で実施形態に関する議論があった。どこが使えるかわからないが参考に値するテキストとして次回の全学実で提案するにあたって全部用意すると約束してほしい。今回の議事録を次回の全学実で参考にしたい。

事：次回以降の全学実で必要であると思うので基本的には参考資料として使用したいと思う。

U：ありがとうございます。

G：関係して、これってもっと一般的にいままでその回以前の議事録を全が売実の場で参照できないのには理由はあるのか。出来るだけ過去の議事録にアクセスできた方がよい。その年のその回以前や議論が継続しているものはアクセスできる方がよい。そうしていない理由はあるのか。

U：全学実とは性質上、解釈にもよるが第62回であれば第62回といった風に分裂が起こっている。つまり62回を行うと言ったらその大で完結するようにできている。昔の議論を引いて考え直すのは無理ではないが全学実の規定として盛り込むと、さっきも言ったが、言ってませんでした、ある種の合理的な態度がとりずらくなることの懸念はある。それはそれとして学部生であったり現在の全学実の構成員の学生が閲覧したいと希望すれば機会を通してアクセスできるようにすることはできる。そうすべきではある。全学実特有のデジタルアーカイブを行ってもいいのではないか。

事：現状としても基本的に全学実が終わって数日以内に公式Webで議事録を公開していて、見逃したりしたら事務局に連絡いただければ参照できる形にはなっている。

U：Webでその記述はあったか。

G：同じようなことだが、そのことを知らなかった。理解しました。

事：とくに記述はなかった。このような意見があった場合に対応して毎回お答えしている。

U：個別対応はしているが公式に記述するのはあえて避けているということか。

J：議事録に関しては過去のことを参照したいと思いつつWebで公開されていると知らなかった。過去の議論を踏まえた方が円滑に議論が進むこともあるので、全学実資料と同じくWeb上でパスワードをかけて今年度の議事録を公開するのはどうか。同じ質問の繰り返しなども防げる。

事：議事録の公開に関して、あえて避けているかというのは全学実の議論の内容をあまり公にすると当局との交渉の際に不利になる可能性がある。消極的というか公開に慎重になっている。今回意見頂いたことは重要なことなので、いまそうしますとは言えないが一度検討させていただきます。

U：その意見は全く持って正しい。例のPenguinみたいに学生のみがアクセスできるポータルを作成してみてもいいと思う。学内限定のネットワークを使うこともできる。セキュリティーに関して詳しくないのでわからないが。

P：次回の全学実でご報告いただければと思います。よろしくお願いします。

長：このほかに意見質問等あるか。

G：このほかではないが、わかりましたとだけ。検討をお願いします。

長：これ以上何もなければ議事録の承認に移る。(議事録確認)

W：訂正があります。(訂正済み)

U：訂正があります。（訂正済み）

I：訂正があります。（訂正済み）

長：問題ないか。承認に移る。この議事録で問題ない方は挙手を。（承認）以上で全学実を終わります。お疲れさまでした。